

いわき農林水産ニュース

(ごちそう ふくしま絆づくり運動ニュース)

8月号 発行 平成24年8月31日



東日本大震災関連



いわき地方の農林畜産物 モニタリング調査結果

福島県が行ったいわき地方の7月の農林畜産物の放射性物質モニタリング調査結果をお知らせします。

調査した25品目79検体のうち、24品目77検体は、検査機器の検出限界値以下でした。基準値内で検出があったものは、1品目(菌床しいたけ(施設))の2検体、基準値を超えたものはありませんでした。

品目としては、全ての野菜と畜産物、菌床なめこ(施設)、原乳において検出が認められませんでした(表1、2)。8月20日現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が規制されているのは、ユズ、たけのこ、ぜんまい、たらの芽(野生のものに限る。)、わらび、こしあぶら、野生きのこ、栽培きのこの原木なめこ(露地栽培)となっています。

調査結果は、福島県のホームページ「ふくしま 新発売。」の農林水産物モニタリング情報で簡単に検索できますので、結果をご確認ください。また、この調査結果は、地産地消推進店、地域産業6次化ネットワーク会員、グリーンツーリズム関係者などにお知らせしています。

(表1) 農林畜産物の調査結果(7月)

放射性物質が検出されなかった品目と検体数	放射性物質が検出された品目と検体数		計
	基準値内で検出された品目と検体数	基準値を超過した品目と検体数	
24品目 77検体	1品目 2検体	0	25品目 79検体

(表2) 1点も放射性物質が検出されなかった品目

- | | |
|-------------|----------|
| ・野菜類 21品目全て | ・畜産物(牛肉) |
| ・菌床なめこ(施設) | ・原乳 |



農産物PRキャンペーン を実施しました

7月20日(金)、21日(土)の2日間、「がんばろう ふくしま！」運動の一環として、農産物PRキャンペーンを福島県の主催により実施し、いわき地方ではマルチショッピングセンター高坂店において行われました。これは、風評被害を払拭し、県産農産物の消費拡大を図るために年4回実施する県下一斉キャンペーンの第2弾として開催したものであり、両日ともくじ引きの抽選により200名ずつに福島県産のモモをプレゼントしました。

出荷・摂取制限等に係る基準値を超えていない県産農産物に対しても消費者の信頼が回復しておらず、消費が停滞している現状にあります。子ども連れの主婦の参加も多数あり、当選者は、出回り始めたモモに喜んでいました。

なお、今年の福島県のモモは、食品衛生法の基準値を超えた放射性物質は検出されていません。

また、参加者全員に配布した「ふくしまの恵みイレブン」が描かれたウチワも好評であり、多くの買物客に農産物をPRすることができました。

8月末に第3弾を予定していますので、みなさんの応援をよろしくお願いします。



(モモが
当たりました!)



(好評だった
ウチワ)



「道の駅よつくら港」 リニューアルオープン！

8月11日（土）、公益財団法人ヤマト福祉財団の支援により新交流館が完成した「道の駅よつくら港」がリニューアルオープンしました。

いわき市四倉町の道の駅よつくら港は東日本大震災で大きな被害を受けましたが、昨年4月に被災した建物の一部を利用して営業を再開し、今年1月からは仮設大型テントにより仮営業していました。

新交流館は、東日本大震災の教訓を基に防災面の機能が強化され、盛土で床が高くなっており、緊急避難場所や非常用トイレ、飲料水用貯水タンクが設けられているほか、今後、太陽光発電施設や蓄電施設の整備も計画されています。

リニューアルオープンに先立ち、仮設大型テントで完成式典が行われました。まず、道の駅よつくら港を運営しているNPO法人よつくらぶの佐藤雄二理事長から「ヤマト福祉財団を始めとする多くの方々の協力により、道の駅よつくら港が壊滅的な被害を受けてから1年5か月で、なんとか再開することができたことに感謝したい。これから地域復興・地域振興のシンボルとして道の駅よつくら港を運営していきたい。」とあいさつがありました。

完成式典の後、関係者のテープカットが行われ、リニューアルオープンを待ちわびていた多くの客が先を争って入館し、1階の直売所では目当ての商品を買い求め、太平洋を一望できる2階のフードコートにもたくさんの客が押し寄せ、食事を楽しんでいました。また、11日（日）から15日（水）まで道の駅よつくら港敷地内で、移動型テストマーケティング・キャラバン「マルシェふくしま号」が6次化新商品のマーケットリサーチと商品PRを行い、リニューアルオープンを盛り上げました。

なお、通常の営業時間は、1階直売所が9：00～18：00、2階フードコートが10：00～18：00、2階うみカフェが10：00～21：00（定休日・第3火曜日）となっています。

みなさんも機会があれば、ぜひ足を運んでみてください。



（テープカットの様子）



「いわき・ふれあいの泉」 で野菜の収穫

好間町上好間にある「いわき・ふれあいの泉」では花オクラ（トロロアオイ）とモロヘイヤが旬を迎えています。「いわき・ふれあいの泉」は、県立好間高校近くにある広さ約500㎡の遊休農地を活用した農園です。特定非営利活動法人ふくしま災害コーディネーター支援センターが、被災者を中心とした好間町在住の方を対象に一区画約25㎡で20区画を貸し出していて、農地での野菜づくりを通して、体を動かしたり生きがいを感じたりすることで被災者の心と身体の健康を保つだけでなく、地域住民との交流を図ることを目的としています。また、福島工業高等専門学校の原田正光工学博士の協力のもと農地の放射線量を測定し、万全を期して耕作を行っています。

8月20日（月）は、農地で耕作している方々のほか、ふくしま災害コーディネーター支援センターの方々あわせて6名が参加し、花オクラの収穫が行われました。当日収穫した花オクラは、花の部分を食べる野菜で、一日花であるため市場にはほとんど流通しません。農地では淡い黄色の花が大きく咲いて、まさに食べごろを迎えました。参加した方々の「体を動かすのが楽しい。」「野菜をつくれるのが嬉しい。」との言葉や笑顔から、作業が生きがいとして被災者の役に立っていることがわかりました。

なお、「いわき・ふれあいの泉」では現在15区画ほどの空きがあり、農地の利用者を募集しています。お問い合わせは、大熊町好間工業団地第一集会所（渡辺自治会長：0246-36-5671）、富岡町忽滑（ぬかり）仮設集会所自治会（藤井自治会長：0246-36-9845）、ふくしま災害コーディネーター支援センター（金成理事長：050-3543-5945）いずれかへお願いします。



（花オクラを収穫する様子）



（モロヘイヤを収穫する様子）

一般情報



**「福島県学校農業クラブ
連盟意見・研究発表
大会」が開催！**

7月26日(木)、27日(金)に、県学校農業クラブ連盟意見・研究発表大会が、いわき芸術交流館アリオスで、県内10の高校から約180名が参加し開催されました。

各高校の研究成果を紹介する「プロジェクト発表」、農業クラブの活動を地域の方々に周知する方法についてアイデアを出す「クラブ活動紹介」、生徒個人が日頃考えている思いを訴える「意見発表」の3部門について、「食料・生産」「環境」「文化・生活」の3つのテーマに分かれて発表が行われました。

発表した生徒の皆さんは、東日本大震災からの復旧・復興を念頭に、継続的に取り組んでいるプロジェクトの成果や日頃の学習を通して学んだり考えていることを熱い思いを込めて発表していました。

大会の結果、プロジェクト発表（食料・生産）の部で、磐城農業高校食品流通科による梨のジャム開発及び製品化に取り組んだ、「復活！いわき梨～規格外品でなしジャムに～」、また、意見発表（文化・生活）の部で、同校園芸科の片桐美紗さんの地元食材を使ったカレーの製品化を目指すための地域の人達との交流・活動について発表した「見せます！いわきサンシャインカレー」が最優秀を受賞しました。

最優秀を受賞した両名は、8月に開かれる東北大会でのますますの活躍が期待されます。



**平成24年度第1回
「いわき地域産業6次化
ネットワーク交流会」を
開催**

7月27日(金)、県いわき合同庁舎において、いわき地域産業6次化運営会議（事務局：いわき地方振興局・いわき農林事務所・水産事務所）主催による平成24年度第1回「いわき地域産業6次化ネットワーク交流会」を開催しました。

東日本大震災から1年以上が経過しても未だに風評被害に悩まされているいわき地域の農林水産業の復興を地域産業6次化により目指すことを目的としています。

始めに、今年度の事業計画や地域産業6次化に対する公的支援策、また、クラスター分科会等について事務局より説明がありました。

次に、いわきビジネス復興協議会理事長松本正美氏より「風評被害に負けない販売方法～いわきを売り込む！～」と題して、風評被害の払拭や地域経済の活性化を目指し東京に拠点を設け活動しているいわきビ

ジネス復興協議会の取り組みなどについて講演がありました。

松本氏の「風評被害の払拭は、まず地元の人達が安全でおいしい物が提供されていることを理解することから始まるのでは」との話に多くの参加者がうなずいていました。

最後に、スイーツや漬物、ジュース、水産加工品などいわき地方の19品目の6次化商品を試食する「6次化商品試食会」が行われました。

試食会では、まず、参加者が試食した6次化商品の評価や商品の感想を事務局から配布されたアンケート用紙に記入しました。

その後、福島県貿易促進協議会海外販路開拓専門員の野下勝彦氏が19品目全ての6次化商品について、商品の味や価格などさまざまな観点からアドバイスしました。

野下氏のアドバイスとアンケート結果は販売者に知らされ、今後の事業展開に生かされます。



(アドバイスする野下氏)

地域産業6次化

農林水産業（1次産業）と加工業（2次産業）サービス業（3次産業）が連携・融合することにより新たな付加価値の創出を目指す試み。

クラスター分科会

コーディネーターを中心に、各地域の特産物となりうる商品開発のコンセプトを決定し、商品の開発、マーケティング、販売方法や販売経路の確立など「地域の特産物・名物づくり」のための取り組み。



「森林環境基金事業成果発表会」が開催

福島県では、県土の約7割を占める豊かな森林を県民共有の財産として守り育て、次世代に引き継ぐため、平成18年度より森林環境税を導入し、「県民一人一人が参画する新たな森林づくり」に取り組んでいます。

8月6日（月）、郡山市の福島県農業総合センター多目的ホールにおいて、森林環境基金事業成果発表会が開催されました。森林環境税を元にした森林環境基金事業により、市町村が行う森林づくり等の推進状況等について8名の方から発表がありました。

発表された取り組み内容は、森林公園の整備、有害鳥獣対策としての森林整備、森林環境学習・木工教室の推進、木製品の導入など多岐にわたりました。

いわき管内からは、田人第二小学校の金子尚矢教諭が「学校林を活用した森林環境学習の実践」について発表しました。田人第二小学校には木林子林（きりんこりん）という学校林があり、この学校林の中で木を使った遊具をつくったり、森林についてのクイズに答えながらオリエンテーリングをおこなったりと、豊かな自然環境を活用した取り組みを実践していました。全校児童数6名と少ない中、森林の様々な側面を学習した取り組み状況がよく分かる発表でした。



(発表する金子教諭)

いわき農林事務所からのお知らせ

ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますのでどうぞご利用ください。

<http://www.new.fukushima.jp/index.html>

- 1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧
- 2 イベント情報
- 3 農林水産物モニタリング情報
 - (1)モニタリング情報検索
 - (2)出荷制限等一覧表

「東日本大震災」
及び「原発事故」からの
復興のために！



ふくしまから
はじめよう。

Future From Fukushima.

皆様からのご意見・情報をお待ちしております。
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)
T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196
U R L <http://www.pref.fukushima.jp/norin-iwaki/>
E- Mail iwaki.nourin@pref.fukushima.lg.jp

